



撮影 金沢支部 中根 茂会員
使用カメラ:ニコンD300
使用レンズ:ニッコールレンズ
80-200mm 2.8ED
使用フィルター:ニコン サーキュラー
POLAR偏光フィルター

〔秋の手取川溪谷〕

不老橋から見下ろすと溪は深く水の色はエメラルドグリーン…小松郊外にこのような神秘的な風景が存在しているんです。一里野へ行く途中、ちょっと車を止めて橋の上から覗いてみてはいかがでしょうか。夏はこの溪谷でゴムボート大会が行われ、近くには綿が滝もあります。

今年は暑かったせいか、紅葉がイマイチでした。風に揺れてピンボケのように写る木の枝に、この日の風の強さが伺えます。



社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

街の元気 ● みんなの元気を応援します

viva city
ビバシティ
社団法人 石川県柔道整復師会

2012
December

Vol. 03

● 特集

サポート接骨石川（SSJ）活動報告

地域の皆さんの健康と
安心をサポートします

秋の手取川溪谷

〔 柔道整復師倫理綱領 〕

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し、技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

C O N T E N T S

1 特集 サポート接骨石川 (SSI) 活動報告

- ①猿鬼歩こう走ろう健康大会
- ②KOMATSU 全日本鉄人レース
- ③野々市じょんからの里マラソン
- ④学校保健委員会講習会で講演
- ⑤石川県総合防災訓練

8 第 36 回 厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会

9 木山時雨会長「旭日双光章」受章記念祝賀会開催

11 Member's Voice

随想 佐藤 裕之

12 トピックス

13 新入会員紹介



● 特集 ●

サポート接骨石川(SSI)活動報告

地域の皆さんの健康と 安心をサポートします

石川県柔道整復師会の会員で組織されたサポート接骨石川(SSI)は、地域の皆様の健康な生活をサポートするため、さまざまなボランティアを行っています。ここでは、その活動の一部をご紹介します。

サポート接骨石川(SSI)活動①

猿鬼歩こう走ろう健康大会

平成24年9月23日(日)、「第26回猿鬼歩こう走ろう健康大会」が、能登町柳田運動公園で開催され、柳田体育館で赤十字奉仕団・サポート接骨石川(SSI)として会員20名がケア・サポートボランティアを行いました。

大会当日は早朝から落雷と土砂降りの雨。一時は大会の開催も危ぶまれましたが、集合時間の7時ごろには落雷もおさまリ、会員達は赤十字奉仕団のベストとキャップを着用し準備に取り掛かりました。



近藤衆議院議員も参加。レース前後の2度、ケア・サポートを受けられた。

時折強い雨が降るあいにくの天候の中でのレースに県内外から940人の選手が参加、ケア・ブースには8時前からマラソンの選手やウォーキングの参加者が次々と訪れ、アイシングやテーピング、ストレッチなどのケアを受けていました。その中に、どこかで見たことのある人が



時折激しく降る雨の中、飛び出して行く選手たち。

いると思ったら、なんと現職衆議院議員の近藤和也議員でした!プライベートで10キロマラソンに参加する近藤議員は、堂本支部長から本会のボランティア活動について説明を聞きながら、日頃の激務で疲れた体にスタート前のケア・サポートを受けて10キロを56分で走り切りました。「おかげで完走できました」と再度ブースを訪れ、ケア・サポートを受けて笑顔で帰っていかれました。思いがけない遭遇でしたが、本会のボランティア活動を国会議員に理解してもらう良い機会となりました。

例年は10%前後のブース利用率ですが、今年はそれを上回る14.8%を記録。今年で10回目を迎えるケア・サポート活動が大会にしっかりと定着し、評価され喜ばれていることの表れ

であり、同時に赤十字奉仕団として理解され信頼をいただいていることの証明でもあると思います。

来年4月1日からは能登有料道路の無料化が決定しており、県内外から今年以上の参加者が見込まれます。歴史のあるこの大会に安心して参加してもらうため、また能登を盛り上げるためにも大会のサポート・ボランティアを続けていきたいと思っています。



昨年を上回るブース利用率は選手からの信頼の証。

選手の声聞きながら施術を進める。



9/22(土) ブース設営・準備研修会

午後3時よりケア・ブース設営が柳田運動公園の柳田体育館で行なわれました。体育館には能登支部会員を中心に6名が集合、ブルーシートを敷きつめ、16台のベッドや大量の衛生材料などを自家用車で何度も往復しながら運び込み、入口には大きな看板を立て掛けるなどの作業を行いました。

ケア・ブース完成後の午後5時から、テーピングなどサポートに関する準備研修会も開かれ、本番に備えました。



看板を立て、持ち込んだ備品をチェック。

突撃インタビュー

ケアを受けた選手に 聞きました!

ハーフマラソン完走 42歳男性(富山県)
雨で寒かったけど、地元の皆さんの声援や拍手に勇気づけられ完走できました。最後にここでケアまでしてもらい本当に温かい大会でした。

10キロマラソン完走 36歳女性(金沢市)
夏の大会で膝を痛めてしまい、不安だらけでこの大会に参加しましたが、テーピングをしてもらったおかげで完走ができました。ありがとうございました。

ハーフマラソン完走 53歳男性(小松市)
この大会は初めてでしたが、ゴールで名前をアナウンスしてもらったり、ゴールテープを切らせてもらったりとうれしい経験ができました。ケアまでしてもらい本当に良くていただきました。

〈施術データ〉

参加選手数	利用率	ケア人数(140名)	
940名	14.8%	男 82人	女 58人

【サポート活動参加者】

堂本義邦・錦川孝彦・山田俊志・干場和規・中野秀人
濱 亮輔・二又俊孝・平田和義・大森荘養・坂下竜彦
山田 誠・赤池敬順・大森宣養・梶 雅彦・高 茂則
釣谷幸裕・中岸三木・山本久人・東 勝一・磯松俊也
以上20名(順不同・敬称略)

【協力業者】

重島医療器・伊藤超短波(株)・直本工業(株)
I.P.Sイエーロボディケア・ファイテン(株)



サポート接骨石川(SSI)活動②

KOMATSU全日本鉄人レース

平成24年9月30日(日)、第31回を迎えるKOMATSU全日本鉄人レースが開催され、雨が降りしきる中、朝7時30分より鉄人の部、ロング、チームリレー、ショート順に選手がスタートしていきました。

■今大会の活動状況

今回は、KATT(金沢大学アスレチックトレーナー部)、北信越柔整専門学校の有志の方々の参加も頂き、ブース内は活気にあふれていました。次々と訪れる選手の希望を聞きながら手際良く施術担当者に振り分け、待ち時間も最小限に抑えられたのではないかと思います。

大会当日が雨模様だったため熱中症の危険性は少なかったものの、気温が低いことによる影響か、ケア内容が多かったのがコンディショニングとストレッチでした。レース中には鎖骨骨折の選手も出るなど、医師ブースとの連携が必要な場面もありました。



気温が低かったためか、コンディショニングやストレッチを希望する選手が多かった。



選手達との会話から刺激を受けることも多い。

今年も苛酷なレースがスタート。



普段の業務とは違う新鮮な刺激と、なによりも選手からの「ありがとう」の声、「頑張ってください」と声をかけて送り出した選手がゴール後にまたケアに訪れ、結果の報告を聞くと、「朝早くから起きて来て良かった〜!」と思うのと同時に、毎年行っているこの活動の必要性を改めて噛みしめています。

公益法人化を進める今だからこそ、地域貢献の意義を身近に感じられるこのような活動を大切にしていかなければと思います。ご協力いただいた会員やKATTの皆さん、木島学園北信越柔整専門学校有志の方々、本当にありがとうございました。

〈施術データ〉

参加者	ブース利用者	ブース利用率	延べ利用者数(283名)	
			レース前	レース後
542名	232名	42.8%	80人	203人

【サポート活動参加者】

麻田 浩・西 剛志・五十嵐久智・山田訓央・山田善造
井原 亘・小川善弘・桶谷靖夫・森田一哉・中村茂之
唐木 均・片田道夫・高橋武史・中田健市・百井和浩
中谷 博・西川典孝・橋本昌治・松本多市・松本和裕
東 勝一・堀松郁子 以上22名(順不同・敬称略)

【サポート支援団体】

KATT(金沢大学アスレチックトレーナー部)
木島学園北信越柔整専門学校有志のみなさん



会員ほか、たくさんの皆さんのご協力に感謝いたします。



木島学園北信越柔整専門学校有志の皆さん。

KATTの皆さん。



サポート接骨石川(SSI)活動③

野々市じょんからの里マラソン



さわやかな秋晴れのもと競技がスタート!

9/13(木) 事前講習会

午後8時より小松ドーム内会議室でKATTのメンバー12名を交えて、事前講習会を実施。アスレチックトレーナーの資格を持つ会員によるストレッチ、テーピング講習のほか、大会当日の細かい注意点などが報告されました。競技前と後のケアの違いについて学生から質問が出るなど有意義な勉強会でした。

慣れのためか会員の参加が12名と少なく士気の低下が懸念されるところですが、求めて参加すれば日常業務に反映できる興味深いヒントが意外なところから得られたりするものです。来年は、より多くの会員の参加を期待しています。



テーピングの講習。

必要な情報を共有し、大会に備える。

平成24年10月21日(日)、第31回野々市じょんからの里マラソン大会が爽やかな秋晴れのもと開催されました。今回は市制施行1周年記念大会ということもあり、過去最多の1454人の選手が参加しました。招待選手として市橋有里選手(1999年世界選手権2位・2000年シドニー五輪出場)と地元野々市市出身の中村悠希選手(カネボウ化粧品陸上競技部主将)もレースに参加、小学生や一般ランナーとともに市内を快走しました。

■今大会の活動状況

前日の20日(土)はブースの準備と事前研修を行いました。大会当日は、午前6時に会場に集合。活動に参加する会員全員が「日本赤十字奉仕団・サポート接骨石川(SSI)」のジャケットに身を包み、万全の態勢で待機…と思う間もなく、7時のケア開始予定時刻前から選手たちがぞくぞくとブースを訪れました。会員たちは、競技前のコンディショニングや傷害予防を希望する選手たちに卓越した技術を提供し、また競技後の選手にはアイシングやストレッチ、今後の練習に関してのアドバイス等を行っていました。

参加選手の中には、会員の接骨院へ通院されている方も数多くおり、「先生、今日もお願いします」「今日のレースはおかげさまでとても良かったです」と声をかけられる場面も見られ、SSIの活動が「あなたの町の接骨院」として地元根付いた活動につながっていることを感じました。最後に山下純二金沢南支部長から「多くの選手たちの感謝の言葉が我々の活動の評価につながっています」との言葉をいただき、サポート活動を終わりました。

【サポート活動参加者】

山下純二・市川 誠・川上 勝・北浦 久・木山隆久
木下真道・坂井秀一・津田佳之・中川 渉・西川典孝
西本正幸・畠山太輔・東 勝一・森 繁彦・山崎一平
佐藤裕之・中谷 博・丸太克幸・後藤真澄・太田信幸
以上20名(順不同・敬称略)

【サポート支援団体】

木島学園北信越柔整専門学校有志のみなさん



応援に来ていた野々市市のゆるキャラ「のっティ」ちゃんと固い握手(西川会員)。

当会のゆるキャラ「のっティ」ちゃん



受付はいいねいに。選手の状態や要望をしっかりと聞く。



顔馴染みの選手の姿もちろほら。

〈施術データ〉

参加者	ブース利用率	延べ利用者数(112名)	
		レース前	レース後
1454名	7.7%	56人	56人



サポート接骨石川(SSI)活動④

学校保健委員会講習会で講演 〈於：小松市立安宅中学校〉

平成24年10月4日(木)午後2時から、小松市立安宅中学校にて学校保健委員会講習会が開催され、SSIより講師を派遣しました。

講師の中村茂之会員は、『スポーツ外傷とスポーツ障害について』をテーマに、学校医・学校歯科医・薬剤師の先生たちと共に参加した生徒227名、保護者49名、来賓3名、職員15名に向けて講演を行いました。

講師を体験して

事前の打合せを繰返して当日に臨んだため、講演はスムーズに進めることができましたが、終了後の質疑応答では保護者からの質問も受けるなど良い意味での緊張感もあり、大変勉強になる経験でした。(中村)

講師は中村会員が担当。



生徒や保護者を含む約300人が熱心に聴講した。



事前に打ち合わせを重ねたため、講義も実技指導もスムーズに進んだ。



サポート接骨石川(SSI)活動⑤

石川県総合防災訓練

平成24年9月2日(日)、輪島市において石川県総合防災訓練が実施されました。87機関7,460名が参加する大規模なこの防災訓練に、本会からも赤十字奉仕団として9名が参加しました。

訓練は、「午前9時15分、能登半島沖で大規模な地震が発生、大津波警報が発令された」との想定のもと行われました。能登半島地



平成25年度

サポート接骨石川 SSI 活動計画

【平成25年】

6月 百万石まつり(金沢市)
8月 草刈り奉仕作業(野々市市)
9月 猿鬼歩こう走ろう健康大会(能登町)
9月 KOMATSU全日本鉄人レース(小松市)

10月 防災訓練(県・各市町村)
10月 野々市じょんからの里マラソン(野々市市)
【平成26年】
3月 能登和倉万葉の里マラソン(七尾市)

※ISTへの参加協力、各イベントやスポーツ大会での救護活動、講師派遣等は随時行っています。



ラップなどの身近な日用品を利用した固定法を伝授。



骨折をした傷病者役の方に手際よく処置を施す。

震と言えば平成19年3月に発生した地震が記憶に新しいところですが、輪島市は平成5年2月にも甚大な被害を受けており、参加した地域住民らは真剣な表情で訓練を行っていました。

一本松運動公園サンアリーナに設置された避難住民のための救護・ケア活動ブースには、骨折や脱臼、捻挫を受傷したとされる傷病者役の方が訪れ、会員は次々にシーネ、三角巾、晒、包帯等を使用して処置を行いました。その後、外傷を負った場合の応急処置法として、レジ袋や雑誌、食品用ラップフィルム等日常生活

で身近にあるものを利用した固定方法を避難住民の方々にわかりやすく説明。途中、視察に来られた谷本正憲県知事は手際の良さに感心し、激励の言葉をいただきました。

県総合訓練には初参加の会員が対応に戸惑う場面も見られましたが、東日本大震災などの被災地でのケア活動を経験した会員がほとんどであり、能登半島地震で被災した会員もいることから、災害に対する危機意識がさらに高まり柔道整復師としての使命感を新たにしたいと思ひます。この訓練を通して抽出された問題点を参考に、災害への備えやケア活動の対応を万全のものにしていきたいと思ひます。



第36回 厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会

祝優勝 北信越ブロック西部代表 2年ぶり、4度目の全国制覇

平成24年10月8日(祝・月)、東京の講道館で日整全国柔道大会が開催され、石川、福井、富山の選抜メンバーで編成した北信越ブロック西部チームが優勝! 2年ぶり4回目の快挙となりました。



北信越ブロック西部代表チームの皆さん。

初戦から厳しい戦いを強いられた北信越ブロック西部は、苦しみながらも勝ち進み準決勝へ。迎えた相手は、昨年の決勝戦で惜しくも敗れた宿敵東京ブロックAです。この大事な試合で副将の小倉選手が豪快な内股一本! この一勝を守りきり、僅差で雪辱を果たしました。



各地区から選抜された強豪揃い、その背中に自信がみなぎる。

2年ぶりの優勝を目指して挑む決勝戦の相手は、東京ブロックBを破り勢いに乗る東海東部ブロック。先鋒が敗れる非常に苦しいすべり出しでしたが、次鋒・田中選手が体落しから抑え



優秀選手として表彰される小倉選手と田中選手。

小倉選手の果敢な攻めが勝利につながった。

込み一本勝ち、中堅・城實選手は試合を優位に進めるも引分け、副将・小倉選手は常に相手に圧力をかけ続け、指導3回を奪い優勢勝ち。ここまでで2-1とした北信越ブロック西部は、会場の誰もが息をのむ戦いとなった大將戦を確実に引分け、見事優勝に輝きました。

各選手がすばらしい戦いを繰り広げ、全員一丸となったチームワークの勝利でした。なお、小倉弘行選手、田中寿人選手が優秀選手賞を受賞しました。

試合結果

<1回戦> 北信越西部 ①-1 中国
<2回戦> 北信越西部 2-1 南関東
<準決勝> 北信越西部 ①-1 東京A
<決勝> 北信越西部 2-1 東海東部

北信越ブロック西部代表

監督	佐々木西盛	福井県
大將	八本木通秋	福井県
副將	小倉 弘行	石川県
中堅	城實 忠信	石川県
次鋒	田中 寿人	石川県
先鋒	宮越 将太	富山県

防災(災害)ボランティア・シンポジウムに参加

東日本大震災被災地での活動を報告



各パネリストから被災地での活動等について報告がなされた。

平成24年6月30日(土)石川県地場産業振興センター本館大ホールにて日本赤十字社石川県支部主催の「防災(災害)ボランティア・シンポジウム」が開催され、本会よりパネリストとして堂本義邦総務部長と中田健市学術部長が参加しました。

後藤真一郎全国ボランティア・市民活動振興センター副部長の基調講演「東日本大震災における社会福祉協議会の活動」に続いて、池田幸應金沢星稷大学人間科学部教授がコーディネーターとなってパネルディスカッションが行われ、パネリストの石川県社会福祉協議会、石川県県民ボランティアセンター、柔道整復師会赤十字奉仕団、かほく市赤十字奉仕団、防災ボランティア・リーダーが活動報告を行いました。

当日は約300名の方が参加され、防災(災害)について真剣に検討する機会となりました。

我ら会員にとっても大きな喜び

木山時雨会長「旭日双光章」 受章記念祝賀会開催

平成 24 年度春の叙勲で本会の木山時雨会長が旭日双光章を受章、8月5日(日)ホテル金沢にて開催された祝賀会には県内外から約 300 人が駆け付け、祝福をいただきました。

平成 24 年 8 月 5 日(日)ホテル金沢において、木山時雨会長「旭日双光章」受章記念祝賀会が、各界からの来賓、ご親族、ご友人、本会会員を含め 304 名の出席のもと盛大に開催されました。この受章は永年にわたる県民の健康増進や保健衛生推進への功績が認められたもので、平成 20 年秋の久世正次本会相談役の受章以来 2 度目の快挙であり、会員にとっても大変な喜びとなりました。

午前 11 時、盛大な拍手のなか木山会長ご夫妻が入場し、ステージに着席。伝統芸能金沢素囃子「操り三番艘」が華やかに演奏されると、会場は格調高く優美な雰囲気になりました。司会の前原智子北陸放送アナウンサーが開会を宣言し、式典は厳かな中にも打ち解



素囃子の演奏で会場の雰囲気は一層華やいて。



木山会長ご夫妻。

けた雰囲気の中粛々と進められました。

発起人代表として挨拶に立った本会顧問田中博人県議会議員は、木山会長の人柄や柔道に対する真摯な態度、岩井塾での柔道エピソード等を織り交ぜながら、出席者の皆様へ感謝の意を表しました。

谷本正憲石川県知事、奥田建衆議院議員(国土交通省副大臣)、馳浩衆議院議員、大島九州男参議院議員、岡田直樹参議院議員、山野之義金沢市長、近藤邦夫(公社)県医師会会長、萩原正(公社)日本柔道整復師会会長より次々と温かい御祝辞を頂戴しました。

続いて工藤鉄男(公社)日本柔道整復師会副会長、橋本大衛協同組合理事長、大徳勇副会長より目録贈呈が行われ、事務局美女から花束贈呈がありました。ここで、喜びもひとしお深くなった木山会長より若いころの思い出話とともに感謝の挨拶があり、皇居で天皇陛下に拝謁を賜った感激、多くの方々からのご指導ご鞭撻を生涯忘れず社会へご恩を返していく決意等を述べられました。祝電が披露され、壇上では「鏡開き」の準備が。一番樽から五番樽のまわりにハッピー姿の来賓の皆様が上がっていただき、掛け声とともにめでたく鏡樽が開かれました。松岡保(公社)日本柔道整復師会副会長の高らかな音頭で乾杯し、一挙に歓談の花が咲きました。

鏡樽が開かれ、松岡日整副会長の音頭で乾杯!

100 名に及ぶ来賓紹介、また石坂修一県議、岡田保典慶応大学医学部教授のテーブルスピーチもあり、Sharing Umbrella Woodwind 六重奏団による華麗なバンド演奏が会場に流れるなか懇親の輪が広がりました。宴もたけなわとなり大場渥乃太鼓が勇壮に奏でられると会場は大いに盛り上がり、親睦交流は一層深まりました。高崎光雄(公社)日本柔道整復師会理事が、木山会長とゆかりの深い日整理事、北信越理事の皆様とともに壇上へ、万歳三唱で木山会長率いる我々石川県柔道整復師会の前途を祝福してくださいました。

最後に本会嶋谷清副会長が閉会の辞を述べ、予定通り午後 2 時 30 分お開きとなりました。ご出席を賜りました皆様には、お忙しいところ誠にありがとうございました。



万歳三唱。

木山会長ご夫妻を囲んで。



感謝とともにこれからの決意を述べる木山会長。



谷本正憲石川県知事。



発起人代表として田中県議が挨拶。



花束贈呈に感無量。

松本薫選手が凱旋パレード

随想

5万人の歓喜に我々も興奮

広報委員 佐藤 裕之

平成24年9月10日(月)、ロンドンオリンピック女子柔道57Kg級金メダリストの松本薫選手(24歳)の凱旋パレードが、古都金沢の中心部で行われました。金沢市の発表では沿道に集まった人は約5万人、松本選手は故郷のファンからの温かい祝福を受けていました。

沿道からのリクエストで「かめはめ波」を披露するなどお茶目な一面を見せながら、満面の笑みで歓声に応えた松本選手は約1キロのパレードの後、「暑い中、こんなに多くの人たちに集ってもらいうれしかった。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べていました。

このパレードに際して石川県柔道整復師会の木山時雨会長は「本会が主催する少年柔道大会で小学校、中学校時代に大活躍した松本選手が金メダリストとなり大変誇りに思う。今後の柔道選手たちにとって大変良い刺激になった。松本選手が子どもの頃、稽古に励んだ岩井柔道塾



小、中学校時代を指導した丸田会員と松本選手は家族ぐるみのおつきあい(右は丸田会員の奥様と息子さん)。



沿道に集まった5万人の祝福を受ける松本薫選手。金メダルが眩しい!

は本会と関係が深く、また私が岩井柔道塾出身だということもあって非常に嬉しい」と松本選手を祝福しました。

また凱旋パレードのオープンカーには、小、中学校時代に通った岩井柔道塾の岩井克良先生と本会の丸田克幸会員がドライバーとして同乗し、窪田浩二会員・山上隆之会員が警備に当たりました。岩井柔道塾師範として松本選手を小学校から高校まで指導した丸田克幸会員は「ロンドンから帰ってからの報告会では少し疲れ気味のようなだったが、今日のパレードでは元気で素敵な笑顔を沿道の皆さんに見せてくれた。同門として松本選手の活躍は大変栄誉なこと」と語っていました。

松本選手は最後に「ここまでやって来られたのは岩井先生や皆さんのおかげ。このような機会を設けてもらって感謝している」と、恩師とのパレードを満喫していました。

少年柔道大会は、本会が公益事業として特に力を注ぎ主催してきた大会です。この大会で活躍する松本選手を見守ってきた本会にとっても、この金メダリスト誕生は大きな喜びとなりました。

パレードに先立ち、県民栄誉賞、金沢市スポーツ栄誉賞も受けた松本選手の益々のご活躍を、本会会員一同心から願っています。

トピックス①

金沢南支部が草刈奉仕活動ボランティアを実施



平成24年8月19日(日)の早朝5時30分、野々市市社会福祉法人石川サニーメイトに会員・家族約30名と施設職員の皆様が集合し、金沢南支部恒例の草刈奉仕活動が行われました。手際よく草を刈って集め、ゴミ袋に詰めて収集場所へ。恒例行事となっているため段取りも良く、7時30分ごろには終了しました。

平成12年から始まったこの活動も今年で13回目、今年は公益活動拡大の意味も含めて四支部に参加者を募集したところ、他支部より5名もの会員に参加して頂きました。

配布された日赤奉仕団の帽子をかぶり、清々しい汗を流しながら施設の方々との交流も図ることができた充実した奉仕活動でした。



もはや恒例行事、手際も段取りもバツグン。

利用者さんとも協力して、すっきりきれいに!

トピックス②

学術部が勉強会を開催

平成24年10月18日(木)午後8時より『マッスルインバランスの考え方による腰痛症の評価と治療ー過緊張筋の抑制テクニックと弱化筋の活性化エクササイズ』と題してDVD勉強会を開催し、14名の会員が参加しました。

我々柔道整復師の場合は、療養費支給の関係で損傷を限局的に捉えて施術する傾向にありますが、姿勢・体の動かし方・関節のアライメント等、身体全体を観て施術することも必要だと思っています。新しい治療技術を学ぶことで、見えてくるものもあるのではないかと考え、7月に行った基礎編に続く治療編として企画しました。



7月の基礎編に続く治療編を学習しました。

トピックス③

県民健康祭シニアライフフェア いしかわにブースを出展



本会が行っているさまざまな活動をパネル展示。



足を止めて興味深げにパネルに見入る来場者も。

石川県産業展示館1号館にて平成24年10月20日(土)・21日(日)の2日間、第21回県民健康祭シニアライフフェアいしかわ2012が開催され、「健康」をテーマに各医療機関、食品関係業者等が集いました。

石川県柔道整復師会では、救護ボランティアをはじめサポート接骨石川(SSI)、文化講演会、各種講習会、柔道推進等、地域の皆さんにとって身近な「あなたの町の接骨院」としての活動をパネル展示しました。

会期中、我々のブースに足を運ばれ興味深げに閲覧される一般の方々に、本会の存在を強くアピールできたものと思います。

新入会 紹介 員

よろしくお願いします！



金沢北支部

平成24年6月22日入会

正札 真二

(しょうふだ しんじ)

生年月日 昭和57年11月4日
出身校 北信越柔整専門学校
住 所 金沢市寺中町イ53-30
接骨院名 しん接骨院
電 話 076-254-6848
趣味・特技 DVD鑑賞・レスリング

◆カメラを新しくしました。広報誌でも活躍してもらうつもりですが、なかなか思うような写真が撮れません。美しい風景や美しい人を美しく撮れるカメラは沢山ありますが、オッサンを美しく撮るカメラはないのでしょうか。

(中野 記)

◆国会も遂に解散となり巷に新党が乱立、あちらこちらで脱原発を唱え騒がしい。3.11で原発の怖さを体験した我が国では、それも当然のことと思う。ただそれでも原発に関する研究は、今後も積極的に推し進めて行かなければならない。

(小松 記)

◆今、海釣りにはまっています。休診日には家族で釣り場に通いさまざまな魚を釣るうちに、子どもは自分なりに釣り場や季節によって釣れる魚の名前等を調べて、いろいろわかる様になったようです。子どもはいつの間にか自分の世界を作り歩んでいくものですね。

(中根 記)

◆今のような混沌の時代に、インドの詩聖ラビンドラナート・タゴールの詩はいかがでしょうか。

●古い種子は生命の芽を内部に持っている。それはただ、新しい時代の土壌に蒔かれる必要があるのだ。

●悪は河における岸のごときものである。岸は流れを堰くが、それは流れを推し進めるよすがとなる。

この世の悪は、人間が水の流れるごとく善にむかわしめるために存在する。

(橋本 記)

◆この時期、脳をフルに活用しているのが受験生。脳の働きについてはかなり解明されているようですが、この脳の機能について考えるのもやはり人間の脳。意外にも、脳には人間に知られたくない秘密があるのかも。受験生諸君、時には脳をおだてて利用してみては

(太田 記)

◆今年の年末ジャンボ宝くじは一等・前後賞合わせて史上最高額の6億円です。一等が68本。当たったら人生変わるだろうなあ～と買う前から心配しています。当たったらどうしよう～～！
ヽ(^◇^*)/ ワーイ

(木藤 記)

◆今年も寒い季節がやってきた。ふと、「ひょう」と「あられ」の違いが気になった。調べてみると、両方とも空から降ってくる氷の粒で成因は同じだが気象観測では直径5ミリ以上のものを「ひょう」、5ミリ未満のものを「あられ」と言うそう。ちなみに漢字は「雹」と「霰」、難しい！今度は漢字の由来が気になってきた…。

(唐木 記)

◆朝、新聞を読もうとして…あれえ！？も、文字が霞んで読めない。何たることか、はつきり老眼を自覚するまでになってしまったのだ。早速、焦点回復運動に勤しむこととなった。何事も安穩と油断していると傷が深くなり慌てることになるのだとつくづくそう思う。

(五十嵐 記)

ピバ・シティ 第3号 (平成24年12月20日発行)

■発行所／社団法人石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

■発行者／木山 時雨

■編集者／佐藤 裕之・錦川 孝彦・中野 秀人・小松 英夫・中根 茂
橋本 大衛・太田 信幸・木藤 正幸・唐木 均・五十嵐 久智